

第24回市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成27年8月26日（水）午後2時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（田中円山動物園長） 定刻となりました。

1名がお見えではありませんが、市民動物園会議を開催させていただきます。

本日は、ご多忙の中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

円山動物園の田中でございます。

まず、今回の開催に当たりましては、日程の変更等で大変ご迷惑をおかけしたことをご容赦いただきたいと思います。

2. 挨拶

○事務局（田中円山動物園長） 開催に先立ちまして、みどり環境担当局長の酒井から、一言、ご挨拶をお願いいたします。

○酒井みどり環境担当局長 みどり環境担当局長の酒井でございます。

本日は、第24回市民動物園会議ということで、委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところをご参集いただきまして、まことにありがとうございます。まずもってお礼を申し上げたいと思います。

そして、私から、先日の市長の記者会見の中でもございましたが、7月25日に起きたマレーグマのウッチーの同居に係る事故死、また、アフリカ館への輸送の折にグラントシマウマの飛馬が亡くなったという相次ぐ死亡事故がございましたことへのおわびをさせていただきます。

動物園市民会議については、先ほど24回目というお話をさせていただきましたが、市民動物園会議の前身でありますリスタート委員会が平成18年に立ち上がりました。その当時、円山動物園は、いろいろな環境の中、非常に厳しい状況であり、この動物園を市民の皆さんにもう一度愛していただけるようにしようという強い気持ちで、専門家や市民の皆さんにご参加いただきまして、平成19年に円山動物園基本構想をつくりました。また、平成20年8月に円山動物園基本計画を、そして平成25年には円山動物園基本計画改訂版をつくり、それに基づき、この10年間、無我夢中で取り組んできたと考えております。

私は、この4月にみどり環境担当局長に着任し、円山動物園と一緒に仕事をさせていただく立場になりましたが、金澤さんが始めてから10年たったのだ、ことしは10年目ということで、あのときの気持ちを持って、動物園はちゃんとできているのかどうか、総括をしなければならないという気持ちでございました。

そうしたところ、7月24日、マレーグマの大変悲惨な事故が起きました。これについて、市民の皆様だけではなく、全国の皆様から大変お怒りのお言葉もいただき、落胆させてしまい、本当に申しわけなく、また、まさに痛恨の極みであると思います。社会的影響もものすごく、先日、動物愛護法に基づき、札幌市の組織であります動物管理センターの立入検査を受けるという全く異例の出来事となりました。そして、その局面において、我々は円山動物園の体制そのものも含めた改善をなささいという改善勧告を受けるという非常

に厳しい状況に置かれております。

この一連の対応につきましては、詳しいご説明があるかと思いますが、ここで、今日お集まりの市民動物園会議の委員の皆様、そして市民の皆様に心からおわびを申し上げたいと思います。

この10年間、無我夢中で取り組んできたというお話をさせていただきましたが、その結果、何か大きなものを忘れていた、落としてきたのかもしれないという思いを持っております。一度失った信頼を回復することは非常に難しいことです。平成17年から10年をかけて市民の皆さんに戻ってきてもらったのかなというところでございしましたが、そのチャレンジをまたやらなければならない状況に置かれているという認識を持っておりますし、また、これをやり切らなければならないという思いでございします。

これから市民動物園会議を開催させていただきますが、我々としても、再度、円山動物園のあるべき姿について一生懸命考え、取り組んでいこうと思っておりますが、委員の皆様におかれましては、何とぞいいアドバイス、ご助言、ご指導をいただけたらと思っております。

長くなりましたが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしく願いいたします。

◎連絡事項

○事務局（田中円山動物園長） それでは、ここで、今回から新しく委員になった矢野委員をご紹介します。

前任の牧野委員にかわりまして、地元町内会の代表としてご参加いただきます。

それでは、矢野委員、一言、お願いいたします。

○矢野委員 円山西町町内会の矢野と申します。

動物園の山側になりますところで、人口は約3,500名、施設を入れますと5,500名おりますが、その会長をしております。

動物園とは、8年前の2月のフェスティバルのときに町内会役員20名から30名ぐらいいを集めて、集客をもとに戻そうと滑り台をつくるなど、頑張っまいました。その効果が近年では特に出ていると思っております。集客もかなり戻ってきているのかと思っております。

また、西町に児童会館があるのですけれども、その子たちが動物園の敷地を借りまして、畑で野菜をつくり、そこでできた野菜を動物に食べさせるということもやっております。

微力ですけれども、町内会としてできること、頑張っいかなければならないことを今後も続けていきたいと思っております。

○事務局（田中円山動物園長） ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。

以降の進行は金子議長をお願いいたします。

3. 議 事

○金子議長 酪農学園大学の金子です。

今回も議長として進行させていただきたいと思います。

今回は、今、局長からお話がありましたとおり、大きな出来事が起こっておりますので、いつもの議題である来園者の状況等につきましては、できるだけコンパクトにご説明をいただき、後半でウッチーの死亡事故等について、皆さんからご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、平成27年度来園者状況について、お願いいたします。

○事務局（三井経営管理課長課長） この4月に円山動物園の経営管理課長に着任いたしました三井と申します。

今日のご説明は、先ほど酒井局長、金子議長からもお話がありましたとおり、後半に重要な議題がございますので、私の説明は、1議題当たり5分程度にさせていただきたいと思います。

それでは、座って説明させていただきます。

平成27年度に来園者の状況についてです。

資料1をごらんいただきたいと思います。

この4月1日からホッキョクグマのララの赤ちゃんの一般公開を開始し、7月12日には開園63年目ということで、累積入園者5,000万人を達成いたしました。また、4月の来園者は、昨年度の1.82倍という数字になり、過去最多の12万7,000人を超えるご来園をいただきました。また、ゴールデンウイークにつきましては、好天に恵まれて、5月3日には、過去5年間で最多となる2万2,719人を記録したほか、期間中の来園者は、平成21年以来、6年ぶりに10万人を超え、12万2,000人余りとなりました。この結果、4月と5月の来園者数を足しますと、29万4,719人と、対前年比1.5倍、10万人以上も多い来園を記録いたしました。

また、6月は、昨年は18日間も続いた記録的な長雨とは異なり、晴れの日が多く、遠足等の行事も順調に行われまして、ほぼ期待どおりのご来園をいただきました。

7月は、ホッキョクグマの赤ちゃんが雌であることが判明し、8月中旬に命名式を想定し、11日から名前を募集するなどの取り組みを進めていました。

しかし、局長からもお話がありましたけれども、7月25日に動物園を大きく揺るがすマレーグマのウッチーの死亡事案が発生いたしました。8月以降も、このように大変痛ましい死亡事案が発生させた状況ではございますけれども、来園者の皆様におかれましては、さまざまな思いを抱えながらも多くのご来園をいただいております。8月25日現在、来園者総数は58万8,635人というふうになっております。

重ねて心からのおわびとご来園をいただきましたことへの感謝を申し上げて、来園者状況の説明とさせていただきたいと思います。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、議題1の来園者状況についてご質問等は何かございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 続きまして、平成26年度決算、平成27年度予算についてお願いいたします。

○事務局(三井経営管理課長) 引き続き、私からご説明させていただきたいと思います。資料2-1をごらんください。

平成26年度決算、平成27年度予算についてご説明いたします。

先ほど酒井局長からもありましたように、円山動物園は、平成19年に基本構想、基本計画を策定いたしました。この中で持続的な経営の考えとして、入園料や寄附金などの歳入と施設整備費、人件費を除いた経常経費との間で収支均衡を目指すこととしております。

まず、平成26年度の決算でございますが、基本計画で整理された収支の項目をもとにご説明をいたします。

これが資料2-1となります。

まず、1の歳入でございます。

入園料は2億2,900万円余りであり、25年度に比べまして3,200万円、率にして約9%の減となっております。この大きな理由といたしましては、25年度は、わくわくホリデーアジアゾーンのオープンなどもございまして、過去20年間で最も多い95万9,000人余りの来園がありました。これに対して、26年度は新しい動物舎のオープンなどの大きな話題がなかったことのほか、天候にも恵まれない日も多くありまして、対前年比8万8,151人減の87万1,280人とどまったことが大きいと考えております。

また、歳入全体では、2億6,000万円余りで、前年度に比べて4,000万円ほど、率にして13%の減となりました。

続きまして、2の経常経費でございます。

まず、26年7月に電気料金が平均17.03%値上げされましたことにより、上から三つ目の項目の電気・プロパン代が25年度に比べて300万円余り増えております。これ以外の経費につきましてはごらんいただければと思いますが、25年度に比べていずれも経費が削減され、節約に努めたところでございます。

経常経費の合計は4億200万円余りであり、前年度と比べまして2,100万円ほどの減となっております。

この結果、歳入から経常経費を差し引いた26年度の収支差は1億4,200万円のマイナスとなり、25年度に比べまして1,900万円ほど増大しております。

次に、資料2-2をごらんください。

先ほどの説明は動物園の基本計画の中で整理されております収支状況でした。こちらは特に歳出のところですが、動物園整備費など、ハード的な施設整備も含めた動物園全体の経費を表したものでございます。

ここに記載のとおり、下から七つ目のアフリカゾーンの建設費をはじめ、動物園の施設整備費を含め、全体で20億9,000万円余りの支出となっております。

続いて、平成27年度予算についてです。

前回の第23回市民動物園会議においてご説明させていただいておりますが、秋元新市長の就任後に開催されました第2回定例市議会で政策的な事業として動物園関係についても追加予算が決定されておりますので、追加された部分についてご説明させていただきます。

資料2-2の中では、歳出の備考欄に括弧で2定補正、翌年度繰り越しと書いてある合計五つの事業が前回ご説明したものに追加されたものでございます。

まず、2定補正事業と書いてあるものですが、アジアゾウの導入に係る準備や原産国であるミャンマーとの交流にかかる経費、象舎の建設に当たりまして、基本設計、実施設計を行わなければいけません、この経費は、合わせて9,690万円の予算としております。それから、今回、アフリカゾーンを整備するのは熱帯動物館の老朽化が大きな要因であります、それに伴う熱帯動物館の解体工事費として2億3,420万円を計上しております。そして、一番下になりますけれども、大勢の方にどきどき体験をしていただけるよう、カンガルー舎の屋外放飼場を改修するため、1,560万円を計上しております。

こちらが2定補正事業となります。

次に、翌年度繰り越しでございます。

アフリカゾーンと猿山の改修につきましては、いずれも26年度、27年度の2カ年の工事スケジュールを組んで整備することとしておりましたけれども、26年度の工事が遅れたということがありました。そこで、議会の議決を経て、アフリカゾーンは1億8,400万円、猿山は5,900万円余りを工事完了後に支払うことで、26年度の予算額を27年度の予算に繰り越しさせていただき、今年度にお支払いすることになったものでございます。

最終的な27年度の歳出予算は、当初、17億4,000万円でしたが、これら5億9,000万円余りが追加されまして、23億3,000万円余りとなりました。今後の収支改善に向けましては、観光関連の事業者とも協力連携を図りながら、有料来園者にたくさんお越しいただけるようにし、そして、そのことによって収入を増やしていきたいと考えております。一方、支出面では、消費税のアップ、資材、人件費等の上昇など、厳しい状況ではありますけれども、できるだけ経費を圧縮して、収支均衡を目指して取り組んでいきたいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、この件につきまして何かご質問でしょうか。

私から一つご質問します。

赤字が少し増えているということでありましたけれども、収入もかなり減っているのですか。

○事務局（三井経営管理課長） 先ほども申し上げましたが、来園者については、一昨年度が96万人余りで、昨年度が87万人で、9万人ぐらい少なくなりました。一般的には、来園者のうちの半分ぐらいは大人の有料の方でありますので、5万人ぐらいが少なくなったと考えますと、600円掛ける5万人となり、収入が3,000万円ぐらい落ち込みます。一方、経費については、削減してきていますけれども、来園者の落ち込みによる収入源が大きく、マイナス幅が大きくなったとご理解をいただきたいと思います。

○金子議長 そうすると、100万人を達成すると、経費はプラスになるのでしょうか。

○事務局（三井経営管理課長） 収支のマイナス幅が大幅に改善されますけれども、収支差となりますから、例えば施設整備により経費が増えたり、先ほど申し上げましたように、100万人の方にお越しいただいてもお子さんなどの無料の入園が多いと、収支改善の目標に到達しないかもしれません。

そういうことがありますので、今までと同様、お子様を中心にお越しをいただくことに加え、さらに経営的に改善するとするならば、有料となる大人、また、市民だけではなく、観光客の皆さんなどにお越しいただくよう、力を入れていきたいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○小山委員 平成26年度は、支出について、前年度より大分締められたのかなと思うのですが、燃料費やえさ代など、見通しはどうか。

○事務局（三井経営管理課長） 今、アフリカゾーンという新しい整備をします。もともと、動物園にはキッドランドという遊園地がありましたが、そこを閉鎖し、その敷地を活用してアジアゾーンやアフリカゾーンを整備しております。

当然、動物への環境に考慮して広くしておりますので、そういう意味で、支出も増えていくこととなります。ただし、一方では、魅力アップが図られ、多くのお客さんにお越しいただけると考えておりますので、収入も改善すると考えております。

こちらにつきましては、現段階ではオープンしておりませんが、支出も増えるけれども、収入も増えるという構造になろうと思います。

○高井副議長 大変恐縮ですが、委員の発現時には挙手して、議長の発言の許可をいただいでください。

○金子議長 それでは、よろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、議題3の平成27年度の主な行事についてご説明いただけますでしょうか。

○事務局（池田調整担当係長） 円山動物園でイベント管理を担当しております経営管理課調整担当係長の池田と申します。

私からご説明させていただきます。

失礼ですが、座らせていただきます。

お手元の資料3に平成27年度の主な行事でございます。

左に項目と日付が入っております。日付について、本日までの分は確定しており、実施した日を載せておりますが、今後のものは、年度当初に計画を立てた時点の予定であり、実施日は未定となります。予定としてはこのあたりにやりたいと思っておりますが、実行する日は改めてお知らせしたいと思います。

とし、ホッキョクグマの赤ちゃんが生まれ、4月1日から公開しております。それ以後、5月の連休には、円山動物園春まつりを行いました。そして、ホッキョクグマの赤ちゃんの誕生を記念して、〇×クイズ大会も行っております。また、5月下旬には第7回アースデイ円山動物園を行っております。

6月は、食性月間ということで、肉食デー、雑食デー、草食デーと、それぞれの食性を切り口に動物の生態について伝えるイベントを行っております。

7月は、7月25日にハーティナイトを開催いたしました。障がいを持つ方に動物園をゆっくりと楽しんでいただくための行事となり、臨時の夜間開園を行っております。そして、夏の特別展ということで、7月25日から8月31日まで古代生物展を行いました。

8月は、8月1日から9月19日までの毎週土曜日、そして8月13日、14日の計10回、夜の動物園を開催しました。

そして、ホッキョクグマの命名式です。開催日は未定となります。また、9月19日から23日のシルバーウィークにも秋まつりを予定しております。

続いて、猿山のオープンについてです。年度当初は9月23日という予定を立てておりましたが、動物の移動の状況を見て、日程については改めてお知らせしたいと思います。

同じく、アフリカゾーンのオープニングについて、当初は10月1日あたりを目標に進めておりましたが、動物の移動など、進行に沿って、日程については改めてお知らせしたいと思います。

また、冬に関しては、元旦からの三が日は入園料を無料といたしまして、ちびっこもちつき大会を開催いたします。

そして、雪まつり期間には、円山動物園スノーフェスティバルを開催したいと思っております。

行事については、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

行事につきまして何かございますか。

○矢橋委員 先般、私どもの会社が協賛いたしました切り紙アートですが、評判が結構よかったと聞いております。ああいったものがこちらに出ておりませんが、動物園主催の事業となり、協賛事業や外部の方が入っているものは除かれているのですね。

○事務局（池田調整担当係長） そういことです。

○矢橋委員 あれだけで結構な数になりますか。

○事務局（池田調整担当係長） 大人とお子さんを合わせて70名の方がいらっしゃいました。

○矢橋委員 外部の方が動物園を使ってイベントするものの数は年間で相当数なりますか。

○事務局（池田調整担当係長） ことし、切り紙教室が初めてでした。今後もそういうお申し出をいただけるのであれば実施したいと思っておりますが、今のところ、その予定はありません。

○矢橋委員 お盆に夜の動物園にお邪魔したのですけれども、氷の彫刻がありましたね。あれにたくさんの方が集まっており、私は外から遠目に見ていましたが、結構な盛り上がりでしたね。ああいったコラボレーションというか、動物を使うような方々も申し出があるのですか。

○事務局（池田調整担当係長） こちらからお願いをしております。

○矢橋委員 私も時々お邪魔しておりますが、オオカミ舎でお茶会をやっておりますよね。やる側からもやりたいということはあるのですが、ブレーカーが落ちやすい、水をくみに行かなければいけないなどがあるようです。これはオオカミ舎自体の問題ではないでしょうけれども、使い勝手がよくないということがあるので、工夫があれば申し出が増えると思います。そして、そのイベントの主催者が人を呼び込むという連鎖があればいいと感じました。

また、気になったのですが、今年はスネークアートをやらないのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 実施の予定はございません。

○矢橋委員 それは打ち切りですか。

○事務局（池田調整担当係長） 機会を見て、また展開したいと思いますが、今年度の予定はございません。

○金子議長 ありがとうございます。

そのほかにもございませんか。

○高井副議長 夜の動物園についてですが、例年、非常に混雑して、交通渋滞や駐車場の不足などを引き起こしているという指摘がありますね。私が今年行ってみたら、交通渋滞と駐車場満車という状態がありましたが、これについての改善策を考えていらっしゃるでしょうか。

○事務局（池田調整担当係長） 交通渋滞に関して、今年度につきましては、ゴールデンウィークにばんけいスキー場に臨時駐車場を展開させていただき、相当の車両にそちらに向かっていただきました。また、今年のお盆の時期の8月13日から15日も、ばんけいスキー場の駐車場を、夜間、臨時にお借りすることができました。

ただ、残念ながら、天候が思わしくなく、利用される方は実際には少なかったのですけれども、天候がよくなりますとお客数は増えますので、次年度以降もそういうふうに臨時駐車場を活用させていただきたいと思っております。

○事務局（三井経営管理課長） 補足いたします。

今、臨時駐車場についてありましたが、それに加えて、動物園の裏側にある円山球場のほうですが、円山公園の駐車場として二つあります。今、裏側の円山球場の駐車場については平面ですが、2階建てにして駐車台数を増やし、来年度の早い時期にオープンできるよう、8月下旬から工事を開始しております。これによってできるだけ混雑を解消しようと取り組んでおります。

○金子議長 ありがとうございます。

そのほかにございませんか。

○矢橋委員 私は今日が最後となりますので、ついでに申し上げます。

この会議に参加したのは、私のような独身の中年の男がひとりで動物園に来て楽しむことをしてくれないかという気持ちがあったからです。私の力も及ばず、この2年間で大したご提案はできませんでした。ただ、途中、婚活パーティーがありましたね。私も参加したかったですけれども、日程が合いませんでした。でも、いい評判を聞いております。

先ほどのように、こちらも外部の企画イベントでしょうけれども、スネークアートも同様に、動物園側から発信できるものがあつたら、そういったものも入れて、動物園主催の事業にしてしまつたら発信しやすい、行くほうとしても、市の関連事業となれば、うしろめたさもなく、楽しめるのではないかと思いますので、ご参考にしていただければと思います。

○金子議長 とても重要なご意見かと思ひます。

外部の団体なりとうまくコラボしながら、動物園の予算を使うことないよう、どんどん協力しながら進めて、なおかつ、それを動物園のイベントとして広く出していくことにより、さらにお客さんに来てもらえ、動物園の新たな楽しみ方ができてくるのかと思ひますので、ぜひ検討をいただければと思ひます。

そのほかにございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 続きまして、議題4の基本計画についてお願いいたします。

○事務局(三井経営管理課長) 私からご説明させていただきます。

資料4というA3判の見開きになつた資料をごらんください。

先ほど酒井局長からもありましたが、円山動物園では、平成19年3月に基本構想を策定し、19年度から28年度までの10カ年を計画期間としております。23年度に基本計画を見直しし、基本計画の改定版を策定し、24年度から28年度までの5カ年の事業計画としております。

この資料は、各事業計画について、23年度を初めとして、28年度を目標としまして、進捗状況を毎年度管理し、市民動物園の会議でご報告を申し上げます。

項目としては、指標項目は1から9までとなっておりますけれども、7-1、7-2がありますので、全部で10項目となっております。

平成26年度時点で目標を達成しているものは、上から三つ目ですが、28年度の目標値である80%に対して、実績値が93%となっております。もう一つは、五つ目の生物多様性の確保に向けた行動ですが、具体的な取り組みを右に記載いたしました。この二つが目標を達成しております。

そのほか、矢印が右肩に上がっているものが6項目あり、達成はしていませんが、着実に改善に向けて進んでいることがおわかりいただけるかと思えます。

それから、上から四つ目の「わたしの動物園」という視点からの行動ですが、進捗状況のところ矢印がございません。これは、1口5,000円のご寄附をお願いしておりましたアニマルファミリー制度にかえて、今年度からは、より多くの来園者の皆様に応援いただくため、寄附の目的や使い道が見てわかるよう、ご案内を申し上げながら、1口500円のご寄附をお願いするサポートクラブ制度を創設し、実施しております。

こちらは新しい制度でございますので、その取り組みをご紹介させていただきたいと思えます。

初回は、チンパンジーの遊具を設置しました。実際には、壁を昇り降りするボルタリングを設置するため、ご寄附をお願い申し上げます。4月の1カ月間で目標額の60万円を達成し、7月18日に取りつけをして、お披露目式を開催いたしました。

2回目は、シンリンオオカミの展示場の植樹について、5月から募集いたしました。目標額130万円のところ、現段階で約半分の60万円ほどのご寄附をいただいております。

こちらは新しい制度ですが、このように実施しております。

そのほか、右に主要な事業計画を載せておりますが、こちらは先ほどのイベントと重複するものもありますので、省略させていただきます。来年は28年度であり、基本計画の最終年度に当たりますことから、28年度には新たな基本計画の策定が必要となります。その際、後ほどご説明がありますけれども、今回のマレーグマの死亡事案に係る対応策として、飼育動物の福祉、健康管理、さらに安全対策なども含めて、市民、来園者の皆様にご安心いただけるような動物園としての飼育体制を立て直し、新しい計画づくりに取り組んでいきたいと考えております。

以上、雑駁ですけれども、基本計画の進捗と今後の取り組みの見通しなどについてお話しさせていただきました。

○金子議長 ありがとうございます。

この件について何かございませんでしょうか。

○高井副議長 先ほどご説明があった新しいサポートクラブ制度についてです。

平成26年段階で447人でして、27年度には5,000人、28年度には2万人とするというアグレッシブな目標となっておりますね。この目標値は修正しなくても大丈夫なのでしょうか。私も会員になっているのですけれども、どんなものなのでしょうか。

○事務局（三井経営管理課長） 詳しく説明させていただきます。

平成26年度までの数字は、アニマルファミリー制度の数字でございます。そして、2

7年度ですが、目標値については下に米印で「新制度」と書いておりまして、こちらは1口500円のご寄附をいただいた方の数となります。金額については、二つの案件を合わせて120万円ぐらいいただいております。

○事務局（池田調整担当係長） 口数でいきますと、累計で2,375口です。

○事務局（三井経営管理課長） 1人何口ということもありますが、その方々のお気持ちによって、この動物のこれならということでもいただいております。まだ半年弱ではありますけれども、二千何百人ですから、目標値の5,000人まで、今後、さらにPRして、目標達成に向けて頑張っていく、可能かと考えております。

○金子議長 ほかにございませんでしょうか。

それでは、私から一つ申し上げます。

今の進捗状況を全体的に見ると、いい方向だと認識してよろしいのでしょうか。それとも、ここについてはもう少し頑張らなければいけないというものはあるのでしょうか。矢印の角度がそれを示しているのでしょうか。

○事務局（三井経営管理課長） 矢印の角度については、先ほどお話ししましたように、目標の達成までの差を示しております。困難なもの、もしくは、比較的容易なものもあります。例えば、下から二つ目のイベント満足度については、現状は96%で、目標は100%となっております。こちらはほぼ達成、もしくは達成の可能性が高いものとなります。また、その一つ上に基礎収支の均衡とありまして、こちらは現段階で1億円ぐらいの差があります。こちらは、今までの取り組みに加えて、新しい計画の中で新たな方策も含めて考えていかなければならないものとなります。

このように整理して、新しい計画の中で目標を達成するべく、新しい方策を組み入れていくことが必要だと考えております。今、例として二つほど挙げましたけれども、そのぐらいの差がそれぞれについてあろうかと思えます。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、議題5の新着動物・出産状況についてお願いいたします。

○事務局（柴田飼育展示課長） 飼育展示課長の柴田でございます。

資料5についてご説明を申し上げます。

主な新着動物、出産の状況でございます。

まず、こども動物園の中にありますけれども、4月10日にオグロプレリードッグが2頭を出産してくれました。

4月22日、23日は、フンボルトペンギンの新たな血統ということで、犬吠埼マリンパーク、新潟市水族館より、雄、雌の1頭ずつが来園してくれました。現在、総合水鳥舎におきましてペアリングをしているところでございます。

5月に入り、6月にかけて、どさんこの森でエゾユキウサギが多数出産してくれました。

うち2頭は死産でございました。8月に入りましても出産が若干続いておりますが、神経質な動物でありますので、どさんこの森は閉鎖させていただいており、その中で授乳している最中で、頭数については落ちついてから確認していきたいと思っております。

6月23日は、改修したモンキーハウスのところにマンドリルの雌が1頭でしたけれども、愛知県の日本モンキーセンターと調整し、雄が来園してくれております。現在、2頭が同居中でございます。雄がまだ若いこともありますけれども、ある程度仲よくしているのかなという状況です。

7月に入りまして、上野動物園にご協力をいただき、ブラッサグエノンの雌が来園してくれています。現在、おり越しの見合い、同居訓練を経て、観覧していただいている状況でございます。

次に、主な転出動物、死亡の状況でございます。

まず、4月下旬でございましたが、ナマケグマが死亡しております。30歳ということで、16歳のときに静岡県から来てくれまして、長い間、円山動物園にいてくれました。最終的には慢性の心不全等という所見でございます。

5月に入りまして、アジアゾーンの熱帯雨林館のろ過排水口での事故でございますが、コツメカワウソの雄が死亡いたしました。ろ過排水口の排水クチが外れたところで足をとられ、上に上がれなかったということです。

6月15日には、グラントシマウマのスモモという雌が死亡いたしました。1986年生まれで、かなり長生きをしてくれました。出産も8頭経験し、そのうち7頭は完全育成してくれた非常に力強いお母さんでございましたけれども、肺炎で亡くなっております。

6月29日には、動物交換をするお約束をいたしました台北市立動物園との間でヨウスコウワニ3頭の幼体を当園からお送りしております。

7月25日には、マレーグマの雌が死亡いたしました。これについては後ほどご報告をさせていただきます。

また、8月23日にグラントシマウマの雄を死亡させてしまっております。

資料5のご説明は、これで終了させていただこうと思います。

○金子議長 それでは、資料5についてご質問等があれば、お願いいたします。

○高井副議長 コツメカワウソについてです。

排水溝口に足をとられたという話ですが、その後の対応策はどのようになっておりますでしょうか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 排水溝口について、接着が不十分であったことにより、取れてしまったということでございます。それによって、目皿も全て外れてしまい、そこに落ちてしまいました。同じような目皿をつけるだけでは足りないということで、目皿の上に大きなかご状のものをボルト締めしまして、コツメカワウソがさわってもとれないようなものにさせていただきました。また、実際につけた後は、コツメカワウソがボルトをさわる様子を確認するため、1週間以上、ろ過をせずに様子を見ました。給水しないよう

様子を見まして、大丈夫だということで、きれいな水のろ過を再開させていただきました。

○金子議長 ほかにございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、議題6のマレーグマ「ウッチー」の死亡事故についてお願いいたします。

○事務局(田中円山動物園長) この議題に入る前に、会議の冒頭に局長の酒井からもありましたが、改めまして、私から、マレーグマのウッチーの死亡事故について謝罪させていただきます。

後ほど詳しくご説明いたしますが、この事故は、同居訓練に当たっての監視体制の不備が原因でございます。とりもなおさず、私どもが同居訓練を行うに当たって十分な監視体制をとらせなかった管理職の責任だと思っております。

この事件については、先ほどもご説明がありましたけれども、例えば、コツメカワウソの事件、そして昨年にはマレーバクの死亡事故もございました。度重なる事故を起こしております、本当に申しわけなく思っております。

今、保健所から公の動物園としては例のない改善勧告をいただいております、計画を鋭意作成しております。局長の言葉にもありましたように、10年前に立ち戻って、いま一度初心に戻って改善を行うよう、計画をつくり、実行していきたいと思っております。

死亡させてしまったウッチーにつきましては、本当にごめんなさいという言葉しかないのですけれども、この事故を通じまして、この会議の委員の皆様をはじめ、傍聴の方にもたくさん来ていただいておりますけれども、市民の皆様、日本全国あるいは世界中の動物を愛する方の心を深く傷つけてしまったことについて、この場を借りておわび申し上げます。

申しわけございません。

それでは、事故の詳細についてご説明させていただきます。

○事務局(柴田飼育展示課長) 飼育展示課長の柴田でございます。

資料に基づきご説明させていただきます。

このたび、マレーグマについて、6月、7月に行いました同居の闘争によりまして、大切な命を奪ってしまったことを心よりおわび申し上げます。そして、ウッチーには本当に申しわけないと思っております。私どもが何を大切にしていけることが大事であったか、反省しなければならないと思っております。

それから、皆様が楽しみにしておられるアフリカゾーンへの引っ越しにおきまして、先般、十分な準備と考えて進めたところではございましたけれども、シマウマの飛馬の移動は、動物にとっては負担を強いたこととなり、死亡させてしまったことについても重ねて申しわけなく、おわび申し上げます。

それでは、死亡事故の報告書でございます。

この報告書をご提出申し上げた後、資料6-2にありますとおり、動物管理センターから改善勧告書を頂戴しております。

まず、資料6を簡単に説明させていただいた上で、資料6-2の別紙に基づき、ご説明させていただきたいと思います。

まず、資料6-1でございます。

マレーグマのウッチーの死亡を7月25日の朝に確認しております。死亡したのは、推定で30歳以上で、長きにわたって円山動物園に貢献してくれた青い目の個体でございます。そして、同居訓練をしていたのはウメキチという雄とハッピーという雌でございます。

続きまして、2ページに移ります。

ご承知のように、同居していた施設は、アジアゾーンの熱帯雨林館のマレーグマの屋外放飼場でございます。

経緯でございます。

同居の方法でございますが、私どもは、春の課内の会議におきまして、今年はどのように動物を飼育していくか、もしくは、繁殖をしていくかという概略を決定しておりました。ウメキチがちょうど性成熟に係る年齢に入りましたことから、マレーグマの繁殖をしようということで合意形成をしていたところでございます。

しかしながら、具体の中身につきまして、例えば、薬を使用するか、同居の時期もしくは方法、それに対する監視体制の詳細をしっかりと詰めておりませんでした。

なお、6月に同居を開始するに当たって、年齢的にはウメキチの繁殖相手をハッピーとしておりましたけれども、同居方法について、さまざま考えた中で3頭同居を進めてきてしまった次第です。

争いが起きた場合の対応についてでございます。

最初に、お互いの相性等を見るため、お見合いなどはしておりました。そして、3頭の場合につきましては、全ての扉を開放して、いつでも動けるように、また、入ってきた場合にはすぐ扉を閉められるようになど、準備をしておりました。また、もし深刻な闘争になった場合は、引き離せるような手だてということで、具体的には、放水、もしくは、おやつのような餌まきを予定しておりました。しかしながら、全ての回において十分な監視体制をとっていたかといえ、手薄な部分が大変ございました。

3ページ目にまいります。

同居後の様子でございます。

これは私どもの観察の結果になりますけれども、当初は雄が雌に攻撃を受けるような状況でした。その後の行動の変化について、そのような中で3頭同居を試みながら行動を観察するというふうに書かせていただきましたが、結果的には仲のよさが十分だったかということは本当に反省をしなければならない部分であったかと思っております。

4ページに入らせていただきます。

同居の経緯は具体的に表に書かせていただいたとおりでございます。そして、現在、お客様から、たくさんのお叱りのメールやお電話を頂戴する中で、どうして当日は分けなかったのかというご質問もいただいております。原因としては、当日の状態で飼育担当者1人に任せてしまっていたことです。このような中での判断といたしましては、そこまで深刻ではないという捉えをしたことにつきましても、人員体制に不備があった部分と大きくかかわっているものでございます。

また、次のページの(5)の獣医師がとった措置でございます。

抗生剤の処方を行いましたけれども、実際に口にする部分が確認できませんでした。こういう手薄さが結果的にウッチーを死亡に至らしめたことと大きくかかわっております。

6ページに移らせていただきます。

死因についてでございます。

同居に伴う闘争によるものでございますが、北大の剖検診断としては、腸管の横隔膜ヘルニアという死因を書かせていただいております。

この事故報告のまとめを7と8に書かせていただきました。

7の事故原因でございます。

具体的な事項といたしまして、同居訓練開始に当たって、しっかりとした検討をしないまま実施に至ったこと、同居時の監視体制について十分ではなかったこと、そして、継続に当たって、行動の変化や健康状態の確認を十分にせずに進めてしまったことがございます。このためにウッチーを死なせてしまったと結論づけており、繁殖推進体制の不備によるものでございます。

この段階で速やかに改善を図ることとした事項についてでございます。

現在、マレーグマの同居については、一時中断をすることといたしましたけれども、同居訓練の開始、監視体制、その継続については極めて慎重に、そして、みんなが理解した中で、法に照らしてもきちんとしたとるように進めていくことといたしました。

次に、資料6-2でございます。

8月21日に動物愛護法を所管されております札幌市動物管理センター様より改善勧告という動物愛護法に基づく極めて厳しいご指導を文書でいただいたところでございます。

改善勧告の根拠となる基準の違反につきましては、第一種動物取扱業者が遵守すべき管理の方法等の細目に違反して行われたことというご指摘をいただきました。

勧告の内容といたしまして、一つ目は、繁殖体制だけではなく、特に高齢の動物、負傷の動物に配慮した飼育体制、そして、獣医療体制も含めた全ての動物にかかわる管理体制を見直して人員配置を確保し、計画やマニュアルを整備するなど、法の基準に適合した体制を構築しなさいということでございます。

二つ目は、動物取扱責任者が中心となって、職員皆が計画やマニュアルをしっかりと確認でき、そして、適正な飼育やよい飼育環境のために十分に内容を理解し、進めていくことということでございます。

次のページにまいります。三つ目は、動物の健康、安全の保持を目的として、今つづけている施設、稼働前の施設等、全ての施設の総点検を実施しなさいということでございます。

これらにつきまして、改善計画を28日までに作成し、ご提出します。また、その結果については9月30日までに報告するようにご指示をいただいたところでございます。

別紙の中身をご説明させていただきます。

表の左の欄は、円山動物園の対応でございます。真ん中の欄は、動物管理センターの見解でございます。そして、右の欄は、関係法令に照らすとこのような基準には適合していないのではないかというご指摘でございます。

まず、一番上の段でございます。

3頭同居訓練の実施に当たって書面を作成していなかったこと、ほかに成功例を確認できていないのに3頭同居訓練を実施したこと、24日には20分に及ぶ闘争が発生していたこと、そして、雄と若い雌の同居訓練において、闘争もなく過ごしていたのに、7月24日にウッチーを含めてしまったことがございます。

これらについて、動物管理センターとしては、同居訓練の組み合わせを考慮し、過度な闘争が発生することを避けるための措置がなかったというご見解です。

そして、法令、基準に照らしますと、第5条第1項ニの「異種又は複数の動物の飼養又は保管をする場合には、ケージ等の構造若しくは配置又は同一のケージ等内に入れる動物の組み合わせを考慮し、過度な闘争が発生することを避けること」、また、共通基準にあります「異種又は複数の展示動物を同一施設内で飼育及び保管する場合には、展示動物の組合せを考慮した収容を行うこと」に適合していないということでございます。

次に、2段目でございます。

同居訓練において闘争が起り、ウッチーがけがをしていたことを確認したのに継続したこと、24日には結果的に闘争を中止させるための対応を行わなかったことがございます。

これらについて、動物管理センターとしては、ウッチーは負傷していたけれども、訓練が苛酷とならないようにするための措置がなかったと考えますというご指摘でございます。

そして、法令、基準に照らしますと、「展示業者及び訓練業者にあつては、動物に演芸をさせ、又は訓練をする場合には、動物の生理、生態、習性に配慮し、演芸、訓練等が苛酷なものとならないようにすること」に適合していないということでございます。

次に、3段目でございます。

7月17日には、ウッチーが後ろ足に裂傷を負っておりました。抗生物質は投与しましたがけれども、この裂傷は7月6日の訓練の闘争によって負傷したものであります。

これについて、動物管理センターとしては、7月6日のけがに対して獣医師において適切な措置は講じられていなかったと考えられるというご指摘でございます。

そして、法令、基準に照らしますと、動物がけがを負った場合には速やかに処置を行う

という法令に適合していないということでございます。

同様に、7月24日には、餌に抗生物質と止血剤を混ぜてウッチーに与えたけれども、結果的に口にしたのはリンゴだけで、餌のほとんど食べていなく、抗生物質と止血剤を混ぜた餌は口にはしませんでした。

これについて、動物管理センターとしては、実質的に投薬できていない、このことを確認した段階でほかに検討すべきことがあったはずだというご指摘でございます。

次に、5段目でございます。

24日もウメキチとウッチーの同居を実施し、このときに中止させる対策をとっていなかった、そして、措置が餌に薬を混ぜて与えるのみであったということがございます。

これらについて、動物管理センターとしては、獣医師や飼育員がしっかりと観察していれば深手を負っていることは推察できたけれども、そういう体制を組織として整えていなかったというご指摘でございます。

そして、法令、基準に照らしますと、「動物の疾病及び負傷の予防等日常の健康管理に努めるとともに、疾病にかかり、若しくは負傷し、又は死亡した動物に対しては、その原因究明を含めて、獣医師による適切な処置が講じられるようにすること。また、みだりに、疾病にかかり、又は負傷した動物の適切な保護を行わないことは、動物の虐待となるおそれがあることを十分認識すること」に適合していないということでございます。

次に、下から2段目でございます。

同居訓練において30歳以上ともなるウッチーを隔離しなかったこと、寝室において若い雌と同居させていたことがございます。

これらについて、動物管理センターとしては、高齢、負傷しているウッチーに対して、隔離したり、お休みを与えたりしていなかったこと、十分な治療が行われていなかったというご指摘でございます。

そして、法令、基準に照らしますと、「負傷した動物、妊娠中の若しくは幼齢の動物を育成する動物又は高齢の動物については、隔離し、又は治療する等の措置を講じるとともに、適切な給餌及び給水を行い、並びに休息を与えること」に適合していないということでございます。

次に、最後の段でございます。

同居訓練のためにけんかになることがある旨の掲示をしていたけれども、ウッチーがけがをしていることの説明はありませんでした。

これについて、動物管理センターとしては、きちんと情報を載せて、掲示することが不足していたというご指摘でございます。

そして、法令、基準に照らしますと、個別基準に「残酷な印象を与えないように配慮すること」とあり、これに適合していないということでございます。

以上、基準にそれぞれ合致していないというご指摘をいただきまして、改善の計画書、もしくは、改善の結果をそれぞれ提出するようというご指示がございました。

飼育展示組織といたしまして、動物園は命をお預かりした上で命をつないでいき、そして、市民の皆様にもいつも笑顔でお越しいただく場所でありますところですが、このような、また、先のコツメカワウソなどの死亡事例のように、適切ではない環境で大切な動物を過ごさせていたことにより死亡させてしまったことは、飼育展示のマネジメントに不備があることによるもの以外ではありません。大きな責任を感じております。

1951年に開園させていただき、現在は180種900点もの動物を皆様に育ていただき、先ほどの局長のご挨拶の中にもありましたように、リスタート以降、市民の皆様の応援をいただき、たくさんの予算、新しい施設をつけていただいたところ、このようなマネジメントの不備で大切な動物を死亡させてしまったことを本当におわびいたします。

まず、改善計画につきましては、28日に動物管理センターに提出させていただき予定でございます。その具体的な項目につきましては、今、最終調整中でございますけれども、まず、法律の基準に適合したきちんとした飼育体制を構築すること、そして、具体的にみんなが共有できる計画やマニュアルをきちんと整備していくこと、職員が一丸となって進められるような教育に強化すること、施設の総点検、具体的には、アフリカゾーンの緊急点検、アジアゾーンを含むほかの全ての動物舎の総点検に入ります。そして、一時的ではありませんが、9月14日から18日まで閉園を実施させていただき予定でございます。

また、秋元市長からは、中期的な課題を含めまして、外部のアドバイザーのお力を活用させていただきようご指示がございましたので、これについても早急に検討をしていく項目として掲げさせていただき予定で。さらに、市民動物園会議の皆様からも意見をいただき、案を作成していきたいと思っております。

市民の皆様または来園者の皆様の声を真摯に受けとめ、それをきちんと消化して、動物の命を大切に飼育していけるよう、再スタートを切らせていただきたいと思います。

今後とも、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○金子議長 それでは、ただいまのマレーグマのウッチーの死亡事故等について、ご質問等をいただければと思います。

○成田委員 まず、教えてほしいのですけれども、死亡原因の腸管の横隔膜ヘルニアとはどういう状況なのですか。なぜこれが死亡原因なのかがわからなかったもので、詳しく教えてもらっていいですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 解剖の結果、私どもでいくと下のほうの肋骨の3本の先端が5センチメートルほど折れていたことが確認されております。それは闘争により起こされたものと思いますけれども、その骨端により穴をあけたことで、腸がそこから出ました。それによってさまざまな内臓負傷の状況が引き起こされたということです。

剖検の診断はこういうこととございますけれども、例えば、肺に影響があったことによって呼吸ができない状況が引き起こされ、死亡に至ったということとございます。

○事務局（田中円山動物園長） 肋骨の骨折は、4本です。

○成田委員 12から15と書いてあるものですね。それが内臓に刺さったことが原因で

いろいろな疾患が起こって、闘争があった翌日に亡くなっているのを発見したのですか。
○事務局（柴田飼育展示課長） 闘争によって骨折し、そして、横隔膜に穴があきまして、そこから腸管が出てしまったために内臓の異常が発生したということです。

○矢橋委員 成田委員のお話にあったように、一般の人にはなかなかイメージしづらい死亡原因だったので、どこの骨がどう折れたのかについて、イラストや模型で図示してもらえればわかりやすかったかなと思いました。

あと、ちょっと思ったのは、この場所のほうが委員会を開きやすいのですけれども、死亡した現場を見せてもらうと言ったら変ですけれども、ここでこういう状態で亡くなっていた、あるいは、ここで闘争をしたということがわかれば、情報としてもっとよかったかなと思います。

本当に残念なこととして、亡くなった動物にも気の毒ですけれども、今後、再発が起こらないような話をしたいと思います。

そこで、一つご提案したいのは、命日的なものなど、今後もこれを風化させないようにしていくための工夫です。月命日ではなくてもいいですけれども、メモリアルとして振り返るきっかけをつくる日を設けてもらえたらいいかなと思います。

また、これから改善書などをつくられた後、それを回して行って実践されるのでしょうか、そういった過程の一つとして、検証ツアー的なものです。例えば、一般の市民の方に来てもらって、現在、こういうふうな工夫をして、このように再発を防止していますというものを展示現場で見せてもらえたら、市民の方も安心するのではないかなというようなことも考えました。

ここで一つお聞きしたいのですが、同居訓練が過去にもあり、こういったことが起こった、あるいは、起こり得るものだったのでしょうか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 同居、特に繁殖につきましては、雄と雌の相性もあります。段階的に同居を進めるわけですけれども、闘争というのは起こり得ることです。

しかしながら、今回のマレーグマの同居の方法につきましては、先ほど動物管理センターからのご指摘の中にもありましたとおり、過去にこのように飼育ができていないものがございます。ですから、3頭同居の方法については、負担が大きい、もしくは、選択するべきではなかったという結論立てをいただいておりますので、検討が十分ではなかったと私どもでは考えているところでございます。

○矢橋委員 話をそらしてしまいますけれども、先ほど、お電話やメールがたくさんあったということですが、そういったものは相当な数が届いたのですか。具体的な数ではなくてもいいのですけれども、結構驚くほどの数ですか。

○事務局（吉田経営係長） のべ1,800通くらいです。これは動物園のみならず、市役所本庁舎にも届いたものの数です。

○矢橋委員 非常に個人的な話をしますが、お電話をしたり、メールをする人たちが本当に動物園に来たことがある人たちなのか、聞いていて気になったのです。

テレビの方がいる前で言うのも何ですけれども、新聞報道やテレビの報道で、1匹の動物が亡くなったということに対して、おまえたち、何をやっているのだよというような非常に感情的な責め方をされる方の中にはいないと思うのです。そういった方々の意見ももちろん大切ですが、感情に左右されると、今後はどうしたらいいのかについて、足元をすくわれるような感じがするので、そこは見失わないようにされたほうがいいなと思いました。

以前も動物にあげるべき餌を動物園職員が食べてしまったという記事もありましたが、一般の読者が読むとあれっという感じでしたね。ただ、そういうやり方もあるということ動物園として説明したかったのではないかとあのころは私もそう思っていたのです。

また、改善報告書で気になったのは、秋元市長様宛てに秋元市長が答申するのですか。この書式自体はほかには出ないものなのでしょうけれども、こうして目にしてしまうと内部でやりとりしているものなのかなと感じるのです。例えば、これを園長にお渡ししたというのであれば、もちろん最終的な責任者は秋元市長になるのでしょうけれども、意識として内部で終わりにしたいのかなという感じに見えてしまうのです。

また、先ほども外部の識者の方々にご意見を求めなさいという市長の考え方が示されましたが、それは確かにそのとおりだと思います。先ほど課長がおっしゃった同居訓練について、3頭が本当に正しかったかどうか、いろいろな学者の方々の見解もあるでしょうし、そういった方々のご意見もぜひいろいろ勉強されたらと思います。

○事務局（田中円山動物園長） 宛先と差し出しの関係についてです。

動物管理センターを所管するのは保健所ですが、政令市で保健所を持っているものですから、行政の仕組み上、こうならざるを得ないということです。法律に基づく権限はそれぞれが持っていますので、内部でということではなくて、目的は達しているということをご理解いただければと思います。

○小山委員 動物園ですから、繁殖は非常に重要な業務ですね。ですから、いろいろなペアリングは過去に経験をずっとされていると思うし、その中でうまくいったりいかなかったりということがあると思います。過去のペアリングでトラブルが起きて、動物がけがをするというケースは、円山動物園だけではなく、いろいろな動物飼育施設で起こり得ると考えたほうがいいのでしょうか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 動物の種類にもよりますが、例えば、相性がいいかどうかということで、雄と雌につきましてはお見合いするため、おりを隔てて顔を見せ合う、次には隣のおりへ、そして、よさそうであれば一緒のお部屋に入れることとなります。

観察をしていってもリスクはゼロにならないかもしれませんが、それは観察の度合いや質でクリアにしていかなければならない部分であったかと思えますし、今後もそういうふうにしていかなければならないと思います。

ただ、予測し得ない行動はあるかもしれませんが、本当に大切な命ですので、今

後は細心の注意を払いながらやっていかなければならないというふうに思っています。

○小山委員 動物園ですから、これからも繁殖については、レベルを上げて、どんどん進めていただかなければいけないと思っています。これらのための技量をアップしていただきたいと思うのですけれども、それに関して、この資料の中でわからないことがあったものですから、2点ほど教えてください。

先ほどおっしゃっておりますけれども、国内的にも世界的にも、ペアリングの場合の3頭同居はあまりないと考えたほうがいいのでしょうか。

もう1点は、3頭同居をした後、7月になって若い2匹で同居訓練をして大分たってから24日に入れていますね。これはどういうことだったのでしょうか。繁殖目的の2頭はある程度安定したのかなというデータではないかと思っているのですけれども、そこに入れてくるのはなぜだったのか。

この2点を教えてください。

○事務局（柴田飼育展示課長） まず、マレーグマに関する3頭同居については、動物管理センターの資料にもありますとおり、事例としては確認できておりません。そういった意味では、通常であれば、雄1頭と雌1頭、もしくは、もとより多数で飼育している施設では別でございますけれども、今回の場合はそのような事例には当たりませんので、一般的ではないものでございます。

それから、また3頭にした理由ですが、そもそも3頭同居の手法を考えた時点で雌2頭がずっと一緒にいたということにとらわれている部分があったのかと思います。そういうことでは、その判断を組織的にきちんとできなかったことが今回の原因に当たるものでございます。

○小山委員 最初の想定を引きずってしまったところがあったということですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） はい。

○矢野委員 資料6-1の3の担当職員等です。

当園は44名の職員配置を行っておりますとありますけれども、繁殖のために職員の方々に過度の負担はかかっていないものなののでしょうか。果たして44名で間に合っているのか、夜勤の方もいれば、有休をとる方も公休する方もおりますから、職員にもう少し余裕を持たせたローテーションの組み方はどうかと思います。恐らく、余裕がなく、いっぱいだから気づくところも気づかなかったのではないかという問題にも捉えられますが、その辺はいかがでしょうか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 人員数は置いておきまして、そういうことを決める時間や場を組織としてきちんと設けていけばこのような流れにはならなかったのかと思いますので、飼育展示におけるマネジメントをきちんとやっていかなければならない部分であります。

また、早急に立て直すところにつきましては、今実施している仕事の中身の優先順位をしっかりと見きわめ、重要なところに人を配置する、例えば、獣医療、動物の飼育をしっかりと

り見るところに力を注いで優先を考えながら仕事を進めていこうという話でまとまっております。

○成田委員 資料の4ページの表に「じゃれていた」と「闘争」という書き方があるのですね。じゃれているのか闘争をしているのかは飼育員だったらぱっとわかるものなのか、基準をきちんと決めていなかったということに通じるのかなと思います。

また、闘争20分間というのはマレーグマにとってどうなのですか。死に至るほどのけがをするほどのことなのでしょう。爪とか牙が人間とは違うので、その辺のことがよくわかりません。

そして、最後に一言です。

ウッチーや飛馬の死亡など、悲しい亡くなり方が続いていて、市民もそうですけれども、飼育員もすごくショックを受けていると思うのです。もちろん、今後は二度と起こらないように対策をとることはとても大事ですけれども、飼育員の心のケアも考えてあげてほしいなと思いました。

質問が二つありますので、お願いします。

○事務局（柴田飼育展示課長） 一つ目の基準についてです。

これについては、監視体制の手薄さがありました。例えば、手をかけなければじゃれている、手をかけたら闘争になっているという細かな基準はつくりようがありませんが、これが複数の目、もしくは、獣医により見ることで、それがよい判断になることはございます。

それから、闘争20分間についてです。

実際には組み合ったり、手を上げたり、後ろに回ったり、そういう流れでしたが、今回は30歳以上のウッチーにとっては苛酷な負担が生じたものというふうに認識しております。

それから、飼育員のことについてのお言葉は、ありがとうございます。

○八木委員 シマウマの死亡については、この後の話になるのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 先ほどの資料5にシマウマの死亡と書かせていただいたのですけれども、けさ、北大の病理学教室から剖検の所見の資料が届きました。解剖の結果といたしましては、肺に水腫が起きていたということでございまして、それが一番の原因です。ほかの臓器についても少しあるのですけれども、組織診断に回して、確定的な病理結果ということで資料を頂戴することになっております。

肺水腫が起きた原因につきましては、健康状態、栄養状態も良好であったという所見になっておりますので、そういった意味では、移送に伴うストレスがあり、内臓に負担がかかって、それが一番出たのが肺という理解をしているところでございます。

○八木委員 先ほどのマレーグマの件も含めますが、コツメカワウソについては本当に事故だと思うのですが、今回の2点についてはやはり人災だと思われれます。動物を展示する側の都合でやったことで動物が命を落としてしまったということですね。これについての

ご批判はあるのですけれども、今、それを殊さらここで蒸し返すつもりは全然ありません。

ただ、それでも動物園というのは種の保存が一番大事な仕事ですし、公益性のある民間ではない市立の動物園は、ほかにも、旭山、帯広、釧路とありますけれども、民間の動物園や水族館との大きな違いは何だろうかということです。10年前に立ち返るといってお言葉もありましたけれども、そもそも公益性のある動物園の役割とは何かというところまで戻って体制を新たに立て直していただけることを期待しております。

種の保存も大事ですけれども、教育という面では、子どもたちに命の大切さを教えるということもあります。人的なことで命を落としてしまったということも含めて、謝罪の言葉もあり、市民の皆さんもお子さんたちもショックではありますけれども、それでもこれからこういうふうやっていく、こういうところで種の保存をしていき、それについてはそういう体制をしていくということについて、できるだけ早く皆さんにご理解いただけるようにしていただきたいと思います。こういう状況を見ますと、皆さんは種の保存のために一生懸命取り組んでいらっしゃったと思いますので、そこをきちんと説明していただけるように期待しております。

もう一つは、死因については、最終的には医療ミスなのではないかと私は考えております。3頭だったからとか、やったことのないことをやったからというのはあくまで後になったから言えることだと思います。種の保存のためにやったことのないこともチャレンジしていかなければいけない、前例のないことに取り組まなければいけないことはこれからもあると思いますけれども、何か起きたときに徹底して検査する、治療することのほうが大事なことだと思います。

話が飛んでしまいますけれども、春に、看板が上から落ちてきて人に当たってしまったということがありました。一見したら、さびついていて古い看板だということは目視したらわかるのです。それはさびついていて古いだけではなく、機械を使って調べてみて、ここがぼろぼろになっているなど、もう少し徹底的に検査すればそういうことは起きなかったのです。

ですから、目視と観察と治療で深度が全然変わってくるのです。起きてしまったことに対しての状況はきっとこうだろうという憶測で流すのではなく、大丈夫だと思うけれども、念のために徹底して調べてみようということが必要で、ここについては改善をしていく必要があると思います。

そういう意味では、ダブルチェック体制といいますか、この人は大丈夫だと言っても、もう一人はそうではないと言うかもしれないので、その可能性がある限りは調べてみるなど、強化して行っていただきたいと思います。

長くなりましたが、今後も頑張ってくださいと期待しております。

○金子議長 貴重なご助言を本当にありがとうございます。

私からも一つお話しします。

今、シマウマについてお話がありましたけれども、こちらについてはマレーグマと同じ

ような分析や今後の対応策が今後出てくるのでしょうか。

○事務局（柴田飼育展示課長） シマウマの移動につきましては、基本的には一般的な手法です。麻酔をかけることによるリスクというものもありましたので、手法としては確立しているというか、同じようにせざるを得ない部分があります。ただ、前後の健康状態について、疲れていなかったとか、もう少し時間をかけて見る必要があったかと思えますけれども、基本的には同じような手法になろうかと思えます。

今後、実際に次を行う場合につきましては、広く他園の最新の情報を収集することにしたと思いますけれども、今、私どもが一般的に外部の情報も収集しながらできる方法はあのような形であったというふうに思っております。そういった意味では、同じような手法にならざるを得ないと思っております。ただ、最新の情報はしっかりとその都度検討することにはしたいと思いますし、動物の様子については、二重三重に、もしくは、時間をかけて見ていきたいと思っております。

○金子議長 今後の動物の移動については、より慎重にやっていくということで、方法的にはほかの動物園がやられているような、同じような一般的な方法でやる予定になりますか。

○事務局（柴田飼育展示課長） はい。

○金子議長 ただ、そういった場合でも今回のようなケースが突発的に起きることも考えられなくはないということですね。

人為的なミスが起こる場合もあるのでしょうけれども、動物ですから、こちらがケアしていても、ストレスといいますか、突発的に死亡することは人間でもありますので、そういうようなことが起きる場合もあると思うのです。

そういった場合に大切なのは、事前にこういうケアをしていますという情報を市民の皆さんにお知らせしておくことです。そして、もしそういうことがあった場合もこういう状況でしたときちんとお伝えすることが重要なのではないかと思うのです。

市民の皆様や私たちもそうですけれども、動物園が仕事をされていないとか問題があると指摘するために集まっているのではなくて、よりよい動物園をつくりたいというふうに皆さんは思っているわけです。ですから、動物園としても私どもにそういう情報を与えていただいて、私たちとしては、その情報に基づいて、よりよい助言やアドバイスができるよう、うまくコミュニケーションがとれるようになればいいと思っております。

そのほかにいかがでしょうか。

○高井副議長 二つあります。

一つ目は、八木委員の話にもありましたが、28日に予定されている報告書はマレーグマの勧告についての回答ですね。しかし、市民などが心配しているのは、マレーグマの問題だけではなく、コツメカワウソやグラントシマウマが死亡しているのは偶然なのかということ。そこで、もう少し総合的、あるいは、組織的、姿勢的な問題があったりはしないのかということで、マレーグマに限定せずに問い直すおつもりがあるのかです。

それから、二つ目は、今、金子議長からもこうしたものをしっかり広報していくというお話があったと思うのですが、今回のお話について、市民や私がショックを受けた背景には、事件が24日の土曜日という週末に起きて、動物園側からの回答がないままにネットで映像が拡散し、どうなっているかわからないという情報の不透明さが不安や悲しみや怒りを増幅させたのではないかと思いますし、そのことが傍聴人の方がこれだけ来ていらっしゃることの裏返しでもあると思うのです。

そうだとすると、今後、報告書は札幌市から札幌市に行政的にやりますが、市民に対して、改善策や、一件一件は無理だと思うのですけれども、回答を総合的に行うとしたら、どんな回路で、どんなスケジュールで改善策の検討や情報公開などを予定されているのかを伺いたいと思います。

○事務局（田中円山動物園長） まず、見直しの視点というか、規模についてです。

今回はマレーグマに関する改善の計画であることは間違いのないのですが、おっしゃったとおり、組織のあり方というか、例えば本当に簡単なことから合意形成の仕方まで、いろいろなことが考えられると思います。

きのうの秋元市長の記者会見でもあったのですけれども、短期的に解決できるものについて盛り込むのはもちろん、先ほども出ましたが、中長期的に取り組まなければならないことも盛り込みたいと考えております。それは1カ月後にすぐできることではないかもしれませんが、こういうことに取り組んでいこうということを盛り込む予定です。

しかも、内部というお話がありますので、外部のご意見をと思っております。もちろん、市民動物園会議は外部から意見を聞く場ですけれども、例えば、ほかの動物園を経営している方、あるいは、動物園で獣医の経験がある方など、まだ特定はしていませんけれども、そういった方のアドバイスをいただきながら案をつくり、それについてさらに市民目線で皆様のご意見をいただきながらつくっていくことになろうかと思います。

金曜日に報告する計画につきましては、勧告をいただいてから1週間ですので、これからこういうようなことをやりますよというものになろうと思いますが、それを実行していくというか、計画を実際に動かしていく上で、外部のご意見や市民動物園会議の委員からご意見をポイントポイントで伺いながら進めていくことになろうと思います。

次に、二つ目の情報提供についてです。

これは本当にご指摘のとおりでございます。たしか、我々としては火曜日にマスコミに対して発表させていただいたかと思っております。諸事情があつて遅れたことは確かでございますけれども、おっしゃるとおり、我々から早目に情報提供をしていれば違ったことになったかもしれませんし、大きな誤解といたら変ですけれども、市民のご理解が得られたのかもしれないので、これは本当に反省すべき点でございます。

実際、昨日、グラントシマウマが死んだときには早目にということで、その日のうちにマスコミ等に情報提供をさせていただき、翌日の朝刊、早ければ夜のニュースに出ましたので、早目の情報提供は本当に大切だということは痛感いたしました。ですから、今後、

改善の取り組みにつきましても皆様にご相談し、あるいは、そういったことがまとまれば、その都度、早目に情報提供させていただきたいと思います。

例えば、マスコミの力をかりたり、インターネットを活用したりすることになると思いますけれども、そういったことに心がけていきたいと思います。

ありがとうございます。

○金子議長 ありがとうございます。

今、高井副議長からもお話がありました。情報の公開についてです。先ほどのお話ですと、1,800通ものご意見が来ているということです。その中にはかなり建設的なご意見もあるのではないかと思いますけれども、そういうものをぜひ参考にさせていただき、また、どういった意見が来ているのかについてもホームページ等で市民の方々にお知らせして、さらによい動物園づくりができるような方向に向かっていただきたいというふうに思っております。

○事務局（田中円山動物園長） いただいた声につきましては、1,800通を全部載せることはかなわないのですが、ある程度累計化いたしまして、こういうご意見をいただいております、それについての我々の認識はこうですというものをネットで既に公開させていただいております。それは、今後いただいたご意見も同じように処理させていただきたいと思っております。

○金子議長 わかりました。ありがとうございます。

そのほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 この件につきましては、28日に対応に関して書類を提出されるということです。また、先ほど柴田課長や田中園長からもお話をいただきましたけれども、昨日の秋元市長のお話では、外部の専門家のご意見も聞いてということです。そういうことからすると、市民動物園会議もそのような位置づけかと思っておりますので、私どももできる限り夢のある動物園をつくることについてご協力をさせていただきたいと思っておりますし、これから中長期的な計画をつくる中では私どももぜひ協力をさせていただきたいと思っております。

そういう場は本来でしたらかなり先になるのかもしれませんが、市民動物園会議を早いうちに開催していただいて、市民あるいは専門家の声を動物園づくりに反映させていただきたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

非常に不幸なことではありましたけれども、これを機会に、円山モデルみたいなものをつくり、世界に発信していけるような動物園になってほしいというふうに思います。

それでは、最後の議題になりますが、事務局からの連絡事項についてよろしく願いいたします。

○事務局（三井経営管理課長） 委員の交代について、ご案内をさせていただきたいと思っております。

今回の公募委員の成田委員、矢橋委員、今日は欠席でございますけれども、河原委員の

3人の委員におかれましては、任期2年ということで、今月末をもって退任となります。本当に長い間、ありがとうございました。

ここで、今日ご出席の成田委員、矢橋委員から、一言、ご挨拶をいただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○成田委員 2年間、あっという間でしたが、お世話になりました。私の意見が役に立つたらうれしいと思います。また、私は動物園が好きなので、今後も遊びに来ます。

よろしく願いいたします。

○矢橋委員 私が述べる時間はないと思って、先ほどの意見の中で言ってしまったのですが、こんな時間をいただけるとは思いませんでした。

先ほど申し上げましたとおり、中年の独身の男がひとりで楽しめる動物園を目指してもらいたいという一心で、2年間、出席してまいりました。結局、私はこの2年間で結婚もできずに、個人的にも願いがかなわなかったのですけれども、今後、私も、一市民、一ファンとして来園いたしますので、引き続きよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

○事務局（三井経営管理課長） もう1点、申し遅れましたけれども、小山委員も今回でご退任となりますので、あわせてご挨拶をいただければと思います。

○小山委員 4年間、委員をやらせていただきました。

4年間でどれだけお役に立てたかは甚だ疑問ですけれども、円山動物園が非常に身近になったと思います。それから、私ごとですが、年間パスポートを買う習慣ができたのは最大のメリットだったと思っております。円山動物園にはいろいろと夢のある計画もあるものですから、これからもどんどん発展して、市民あるいは世界中の方々に喜ばれる動物園になっていただきたいなと思っております。

本当にありがとうございました。

○事務局（三井経営管理課長） 次回の市民動物園会議は、新たな公募委員をお招きして開催することになります。

先ほど議長からお話がありましたように、例年の開催のスピードよりも早目にとということで、私どもが報告させていただいた後、できるだけ早く、秋には市民動物園会議を新しいメンバーで開催させていただきたいと思っておりますので、何とぞよろしく願いいたします。

○金子議長 それでは、今日は、長いこと、また、大変重い議題につきまして熱心にご議論をいただき、本当にどうもありがとうございました。

市民動物園会議は、次回以降、メンバーが変わりますけれども、今回、退任される皆様におきましてはサポーターとしてかかわっていただき、ご意見やアドバイスをいただければと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

今日は、本当にどうもありがとうございました。

○傍聴人 はい！

動物園に対して質疑応答タイムを設けてほしいというようにメールをいたしました。どなたも読んでくださらなかったのでしょうか。何のために来たのか、本当に疑問を感じます。すごく悲しく感じます。そして、ここに集まった皆さんは動画を見た人なんのでしょうか。全員、動画を見たのでしょうか。

矢橋さん、いかがですか!?

○矢橋委員 ご指名だったので、お答えいたしますけれども、私も過去にこういった委員会に参加しましたが、傍聴人の方のご意見は募らなかったはずですがけれども、いかがでしたか。

○金子議長 一応、会議はこれでおしまいという形になりますけれども、傍聴人は傍聴でするので、ご意見を傍聴人からいただくというような形にはなっておりません。

ですが、何かお話を今されたいということでしょうか。

○傍聴人 はい。

○金子議長 それはどうされますか。

市民動物園会議としては、これで終了とさせていただきたいと思いますが、今、市民の方からお話をいただきました。まず一度、ここで閉めたいと思いますが、よろしいですか。

では、動物園会議としては、一応、これで終了させていただきたいと思います。

皆さん、どうもありがとうございました。

ここでお引き取りになる皆さんは、お引き取りください。

3. 閉 会

○事務局（田中円山動物園長） 長時間にわたり、ありがとうございました。

今回、メンバー交代もありますけれども、引き続き、動物園を応援していただけたらと思います。また、委員になっていただく皆様におかれましては、ちょっと重たい議題ではありますけれども、引き続きお力を頂戴できればと思います。

今日は、長時間にわたり、本当にありがとうございました。

以 上

※この内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。